

第1回 熊本市生物多様性推進会議

平成29年3月9日(水) 14:00~16:30

熊本市動植物園 緑の相談所2階

ー議事録要旨ー

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 配付資料の説明
4. 熊本市生物多様性推進会議主旨説明
5. 熊本市生物多様性推進会議委員長選出

6. 議 事

(1) 平成28年度熊本市生物多様性関連事業実施状況について

●資料についての説明

【熊本市 環境共生課_村上主幹】

- ・ 資料1(平成28年度熊本市生物多様性関連事業実施状況)についての説明

<基本戦略1について>

【学識経験者_飯田先生】

- ・ 4課連携プロジェクトとあるが、これは基本戦略1のみに関係しているのか。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ ここでは体制構築ということで基本戦略1にあげている。普及啓発という意味では基本戦略2にも深く関わっている。基本戦略2に①生物多様性の認識の向上の取組があるが、その中でも4課連携プロジェクトでイベントを検討している。4課連携プロジェクトは、基本戦略の1と2に大きく関わっている。

【NPO法人コロボックル・プロジェクト_甲斐原理事長】

- ・ 庁内推進会議が非常に重要だと考えている。今の説明は庁内の複数の課がそれぞれの視点で生物多様性に取り組んでいることのまとめだと思う。ただ、ベースとなる各課がどの程度生物多様性を理解しながら取り組んでいるのか、本年度以降どう我々が発信しながら一緒に協働していくのかがとても大事ではないかと思う。
- ・ 本年度は地震がありなかなか難しかったと思うが、庁内推進会議の共通理解状況はどうであったか。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ 基本戦略 1、2、3 の主に環境の分野に関わる部分はある程度実施ができています。基本戦略 4、5 については、それぞれ取り組みを実施しているが、生物多様性という点ではまだ連携がとれていないところがある。
- ・ 庁内の推進会議については、環境局の他、健康福祉局、農水局、経済観光局、都市建設局、教育委員会、各区役所等の主に取り組みをしている課に入っただいて、今年は庁内で一斉に集まることはできなかったが、個別に各課を回って説明を行っていた。
- ・ 実際のところ、まだよく理解していない課もあるので、来年度以降に推進会議の結果をインプットする際に、生物多様性あるいはCプランとはどういうものなのかを改めて、庁内に周知していく工夫をしていきたいと思う。ただ昨年度の策定段階の時と比べると、「こんなことも実施しているよ」という声が新たにあがってくることもあったので、そういった点では生物多様性について知っている担当の方が増えてきているのではないかと思う。

【学識経験者_内野先生】

- ・ Cプランを策定する前に、まず庁内で生物多様性とはどういうものか、地域戦略とはどういうものかという講演会を、私と事務局で実施してから進めている。その時は浸透していなかったが、このように具体的に提示されて自分たちもやらなければいけないとなってくると、徐々に浸透していこうと思う。

【水と緑ワーキング・グループ_大住代表】

- ・ 協働ということで、市の方と私たち一般市民がやって来た中で感じたことだが、今はとても良い関係が築けていると思う。皆さん話が早くて1言えれば10返ってくるという関係があるが、何年この体制なのかという保証がない。そのため、中の人はどう変わっても変わらない、持続可能な生物多様性の会議というものにしていくためには、どのようなことが必要なかなと思う。
- ・ 地下水の分野ではもめ事がありながらも、地下水財団という形で結実している。このようなものが何か必要で、そのことを言い続けなければならないという実感がある。地下水財団は30年を経てやっと作られたものだが、行政の方々が本気で言い出せばあっという間に出来上がると思う。市民が言うとも30年かかる。その辺りをもっと具体的に話ができれば良いなと思う。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ その辺りは次の基本戦略2に関わってくると思うが、プラットフォーム化というのが一つ大事になってくると思っている。若手をどう入れていくのかということ。点的にやっている取組をどう広げていくのかということ。行政の進行をどう継続していくのかということ。人はどうしても変わっていくので、人が変わってもお互いに刺激をさせるようなつながり、そういった関係性が必要なのではないかなと思う。

【NPO 法人コロボックル・プロジェクト_甲斐原理事長】

- ・ 進捗状況及び評価等に絶滅危惧種等の情報を広く収集・蓄積する手法などと文章化されているが、例えばアライグマについては全県下的にも大事に取り組んでいる部分だと思うが、その他の多様な危機に瀕している種があるのではないかと思う。今の段階で情報収集についてはどのような状況か。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ 現在、市が主体となって生物調査を実施するというのはなかなか出来ていない。
- ・ 絶滅危惧種に関わらず生きものの情報を市内でどのように蓄積していくのがよいかという点については今年度検討を行ったが、絶滅危惧種に関しては情報の取り扱いの難しさもあり、実際に誰からどのようにどのような形でデータをもらうかというところまでは至っていない。
- ・ それに関わる事として指標種のモニタリングという話をさせて頂いたが、種や環境をターゲットにする中で、地域の方々と一緒に地域の自然を見守るようなプロジェクトは行っていきたいと思っている。

【NPO 法人コロボックル・プロジェクト_甲斐原理事長】

- ・ 市民参加型モニタリングを進めていく中で、そういう情報も入って来るだろうということか。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ そういうことである。

【学識経験者_内野先生】

- ・ これについては環境共生課、動植物園、博物館、環境総合センターの4課連携プロジェクトや、有識者の専門家等がおられるので、こういう方々と協力して進めていきたいと思う。県だとレッドデータブックを策定しているが、これの熊本市版が出来るのかできないのか、そのようなこともある。まずは手始めに指標種の動向をモニタリングしていく予定となっている。

<基本戦略2について>

【学識経験者_内野先生】

- ・ プラットフォーム化についてももう少し詳しく説明して欲しい。

【熊本市 環境共生課_藤井主任主事】

- ・ 生物多様性の取組に関して、各主体となる行政機関、市民の方々、市民団体の方々、事業所の方々がそれぞれ単体ですばらしい活動を行っているが、それぞれの主体には強みがあるので、その強みをさらに活かしていくため、また活動を長く続けていくためにも、それぞれが連携していくことが大事になってくる。それぞれの主体の方が繋がっていきけるようなひとつの場、土台という意味でプラットフォームというのをイメージしている。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ どのようなやり方をするのかというのはまだ議論していかなければならないが、他の都市の事例をみると、web サイトだけで情報を共有している所もあれば組織体としてやっている所もある。名古屋市では、センターを作り場所を作るといったような事例もある。どのような形で進めるかというのは色々幅もあり、繋がりというものをどう実現するのかは様々な手法があると思う。そのあたりを来年度は詰めていきたいと思っている。

【水と緑ワーキング・グループ_大住代表】

- ・ 私のイメージとしては、ここの机がプラットフォームで、そこに集う私たち一人一人がその一員なのだと思う。私は観察会が得意なので、子供たちに学び・繋がるということ、生物多様性というのを体で知ってほしいと思っている。必ず地下水を組み合わせる観察会をするので、経済も循環させるように、親たちには地下水を育む、ここでできた農産物を何か買って帰ってくださいねとお願いしている。例えば、私は生物についてはまったくの素人なので、この場で内野先生にお願いしますといえる関係ができて、とても得をする会議に参加させてもらっていると思っている。
- ・ ここで得た知識をここにいるみなさんが、熊本市あるいは熊本県全体に発信することができるので、そして今ここが問題なのだが皆さん一緒にやりませんかというような情報発信もしてくれたら、私たちはどういことができるかと考えることができる。発信される問題点は自分たちも感じていることだと思うが、解決する手立てが見えないという時に色々な専門家が入って、行政の方も入って、行政と対等な立場で話し合いができるようになると良いと思う。
- ・ プラットフォームというか何々会議というかは別として、そのような中心になる部分、私たちが出入りしやすい、こんな事をしたいので先生を紹介して欲しいと言える場所が欲しい。また、観察会の結果等も持ち寄れる。例えば金峰山でやるとしたら甲斐原さんをお願いできる。このような立体的な生きた会議が欲しい。それはずっと欲しいと思っていたので、プラットフォームの構想は良いなと思っている。

【株式会社 杉養蜂園_毛利代表取締役会長】

- ・ 先月のミニシンポジウムに参加した時に高校生の話を聞いたところ、小さいときに釣りに行って楽しかったとか、幼少時に体験をして、それをもとに勉強がしたくなったという生徒が大半だったと感じた。小さい頃にそういった体験をする場をどのように提供していくかというのはとても大事な、生物多様性につながる重大なポイントではないかと思う。ミニシンポジウムのようなものから派生させて実体験ができるような仕組みを作るのは良いことだと思う。

【学識経験者_石黒先生】

- ・ 他課との連携、例えば教育委員会との連携のところ、緑化コンクールをやる前に、学校にはどのような緑化が必要かといったことをこのような場で話し合っ提案することも必要だと思う。

- ・ 校長室に文部大臣表彰等が飾ってあるような学校でも、片方ではよいものがたくさんあるが、外来種がたくさん生育していたり、樹木の剪定でも成型すればよいという感じで、葉っぱの真ん中から切られているような樹木がかわいそうな剪定がされていることがある。ただ見た目がきれいであれば、緑化コンクールで最優秀賞を受賞している。
- ・ このようなことがあるので、私たちが考えていることを教育委員会あたりと連携する前にきちんと伝えるべきだと思う。各課との連携は集まって話をすることも大事だが、その前にこの推進会議の意向を伝えられる連携をしていくべきだと思う。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 学校緑化コンクールは、以前は緑化推進課が担当していたが、今は教育委員会が担当している。環境共生課は関わっているのか。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ 学校緑化コンクールは教育委員会の指導課が担当している。環境共生課は緑の羽根募金を行っている地域みどり推進協議会の事務局として関わっているので、その関係で環境共生課も関わっている。主には教育委員会がやっていて、審査員の方は学校教諭の経験者、造園関係者と環境共生課が担当している。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 以前私も10年余り審査員を担当していたが、以前と今のは変わってきている。以前は、緑化教育や環境緑化とはどういうものかということ、コンクールを通して浸透させるために実施していた。だから「学校緑化のすすめ」という冊子を作成して配布したり、コンクールで審査する時に理念や考え方等を説明したりしていたが、最近はどうもそうでもないようである。環境共生課も関わっているなら、その辺のことも考えて実施して欲しい。

【学識経験者_飯田先生】

- ・ 課題及び今後の見通しで「学習支援ツール」とあるが、これは教材ではなく、イベントや体験といったものを含んでいるのか。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ これについてはまだ具体化してないが、先ほどの話にあったように学校で色々やられていても必ずしも生物多様性といった視点の教育に繋がるとは限らないということがある。そういった時に使いやすいプログラムや教材があると良いのではないかと思う。
- ・ 一部博物館の方でゲストティーチャーという形でプログラムを提供したり、学芸員の専門知識でやられたりということもされているので、まずそういったところとどういったことができるのかという話をしていきたいと思う。

【学識経験者_石黒先生】

- ・ 平成5年頃には教育委員会が主体となって、内野先生が委員長で「かんきょうとわたしたち」と「地球にやさしく」という環境副読本を作り、小学校の低・高学年と中学校に配布したことがある。今の時代に合った生物多様性に踏み込んだそのようなものができれば良いなと思う。

【学識経験者_仮屋崎先生】

- ・ 関連して生垣コンクールのようなものも良いのではないかなと思う。

【学識経験者_石黒先生】

- ・ 以前緑保全課で実施していたと思うが。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ 現在は実施していない。

<基本戦略3について>

【熊本市南土地改良区_永井事務局長】

- ・ 農水局の方と我々農業団体とNPO等と一緒に、森林や水の保全や外来種の状況確認、農村地域においては地域用水として利用するための農業水確保、耕作放棄地の対策などを、お米を沢山食べてくださいという運動も含めて実施している。
- ・ ただ農村地域にはなかなか一般市民が入れないというのがよくあるそうなので、農村地域では住民協働で地域を守る活動として、美土里ネット等で熊本市内、県内、全国的にもそういった活動を行っている。特に森づくりを含めた水源の保全は熊本特有のものである。
- ・ 生活に困ることは必ずやるが、未然に防ぐ活動は後回しになって、なかなかできていないので今後の課題である。活動はこれ以外にも沢山あると思うが、色々なものを抱えていると思う。

【学識経験者_仮屋崎先生】

- ・ 今日、会議に来る前に水前寺の競技場の横を通ったが、そこにある大きなクスノキの大きな枝が切り落とされていた。工事の関係で必要だったのかとも思うが、現場の施工をする方と行政の方、行政の中の連携がうまくいくとその辺りが防げるのではないかな。大きい木になるには数百年かかり、時間の産物である。生物多様性とは時間であるので、その辺の認識を共通で持てれば良いかなと思う。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 以前から街路樹の剪定の仕方については問題になっている。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ そのための緑化技術講習会等を行ってはいるがまだ浸透していない。熊本県でも街路樹関連のガイドラインのようなものを出しているが、実際どうかというところは不透明である。一方で地域の方から邪魔だとか言われることもあり、難しい部分である。

【学識経験者_仮屋崎先生】

- ・ 結局はそのような不便をどの程度人が受容していくのかという問題である。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 恩恵については感じないわけなので。そのような所も生物多様性の恩恵というのを分かって貰えるようにしないといけない。行政は道路維持課や公園課とも全部一緒になってどういう剪定の仕方が良いかというところも検討していかなくてはならない。

【学識経験者_石黒先生】

- ・ 残していくにはお金がかかる。熊本農業高校の跡地に江津高校ができたときに、建物を建てるためには大きなクスノキをどけなくてはいけなくなった。20トンのクレーンを持ってきて、1本200万円かかった。そのようなことをして移植を行った。
- ・ そういうことが市民の共通の願いや思いとして醸成されていかないと、なかなか先ほど出てきたようなことはできないのではないかと思う。30年ほど前の話である。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 同じころ花畑公園のクスノキが枯れそうになっていたが、全市民、全市が一体となってかなり予算もつぎ込むといったような気運も当時はあった。そういう気運を盛り上げていくのも大事である。

【NPO法人コロボックル・プロジェクト_甲斐原理事長】

- ・ 保全に関して話題提供2点。一つは、絶滅危惧種の保全というところで、動植物園におけるスイゼンジノリやタナゴ類の云々とあるが、実はコロボックルのフィールド内で、道路工事に伴ってタナゴ類が絶滅の危機に瀕している。この件は本年度末に作成する柿原の迫谷のパンフレット、迫谷プランとして、これまでのデータと共に出していこうと思っている。これは北部土木センター関連、農地整備課など。さきほどから話題となっている関係機関との連携、市民意識の醸成ということにもものすごく絡んだ事例だと思う。
- ・ もう一つは、金峰山みちくさ館の横に耕作放棄地を借りて、景観植物を2年間市民の方と栽培している。今度の地震で田んぼの石垣が多数崩れた。農業を続ける方は、あの地震での影響を乗り越えてどうにか田んぼが継続できないかとずっと見てきた。どうにかその方たちと連携していかないといけないと思う。田んぼづくりは生物多様性そのものだと思うが、ますます連携していかないと多様性の恵みが子供たちに引き継がれていかないとと思う。

【水前寺活性化プロジェクトチーム_永野会長】

- ・ 今小学校 2、3 年生で地域の学習があるので地域を案内している。先生方も新しく入ってくるので初めて知ることも多いようである。特に水前寺の地域は水が特徴的なので、公園内やその周囲の藻器堀川と江津湖について案内している。当然知っているであろうと思う子供たちも目を丸くして聞いてくれて、興味を持って先の学年での催しにも参加してもらっている。そういう取り組みを地道にやっていく。
- ・ 緑の保全という部分について、木が切られるたびに胸を痛めているが、台風等の理由で地元から安全性を言われると、樹木の中を調べてもらい、なるべく守るようにしたこともあったが、やむを得ず伐採しなければならぬことがあった。守らないといけぬことを私たちがしっかり守っていかなくてはならない、壊れてしまってからではどうしようもならないという思いである。
- ・ 水前寺ノリや水前寺菜、水前寺モヤシといった「水前寺」という名前が付いたものは多いが、残念ながらこの環境の中で残っていくことができなくて、細々とその時期だけ出て来る物もあるので、絶えなくて欲しいという思いである。園内では水前寺菜を育成している。もともといろんな地域で、金時草など名前を変えて食べられながらも、水前寺らしい水前寺菜がなくなったことが悲しくて、園内では原産地として水前寺菜を作っている。子供たちに地域を愛してもらえるように案内をするというのはとてもやりがいのある仕事だと思う。
- ・ 藻器堀川は子供たちと掃除したり、地域の方々に中に入ってもらい水の綺麗さを見てもらったりしている。昨年水前寺公園の中の水が干上がってしまったが、のべ 1,000 人くらいで中の土砂を掘り、現在では以前よりも水が出るようになった。やはり様々な方に参加していただくということ、少しでも折に触れてできることを見つけてやっていくしかないかなと思う。

<基本戦略 4 について>

【学識経験者_仮屋崎先生】

- ・ 熊本城の被害の状況が話題となっているが、あれはお城の天守閣が壊れてしまったというのが悲しいのではなくて、熊本城の周囲の環境を含めたトータルが皆の精神的な支柱になっているということだと思う。熊本の皆さんの心の中には、地元や郷土に対する強い気持ちがある。これは他所に負けないと思う。
- ・ そういう気持ちがあるということは、先ほど話があった花畑公園のクスノキ等の危機があった時には、表面に出て来るのだと思う。その時にマスコミも含めてみんなが注目して、動いていく。以前菊池溪谷の谷沿いに道路を通すという話があったが反対があり、結果として道は迂回して谷を通らない形にした。谷の中に舗装道路を通すと森林の環境が乾燥化したり、排気ガスが入ることになる。大勢の人間がそこを利用するわけだが、その谷の生態系が全て変化してしまうということで、そこを迂回して尾根筋に道を通すことになった。この時も花畑公園のクスノキの時と同じだったのだと思う。
- ・ そのような素地があるので、上手くアプローチをして情報を発信していくと、生物多様性の維持というものは、大きなムーブメントになる可能性が大いにあると思う。そ

のためには連携、プラットフォームでもあったが、何らかの形で情報を効率よく集めたり流したりという役目、中心的な物、存在が必要だと思う。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 今の「創る」話は生物多様性に配慮してそれを浸透したやり方でやって貰いたいという事である。熊本城の話は、次の基本戦略5の「活かす」にも関係する。菊池阿蘇スカイラインの話は基本戦略3の「守る」にも関係している。

<基本戦略5について>

【市民公募_那須氏】

- ・ H28年度の主な取組概要に、地産地消の促進や消費拡大を図る目的で朝市や水産物フェア等を開催とあるが、例えば熊本県ではグリーン農業という仕組みがあるが、シールを見たときに何を意味するものかまったく分からなかった。消費者が欲しいものは、安心・安全な食べ物であって、熊本の方々はそういう意識は高いと思う。無農薬や無化学肥料等、色々な試みをやられてきて、これで地域おこしが出来るなど思っているが、グリーン農業に関しては、グリーン、緑の農業となんとなくわかるような、わからないような感じである。くまモンの後ろに緑が塗ってあるとか、白が塗ってあるとか、具体的にさっぱりわからないところがある。それならば、袋に減農薬とか解りやすい言葉が入っていると消費者も選びやすいし、多少高くても手が出ると思う。せっかくグリーン農業という取組があるのに、アピールが違うのではないかと感じる。
- ・ 少し戻るが、モニタリング調査について、種に偏った調査を考えているのではないか。絶滅危惧種や指標種も象徴的なものなので調査はもちろんあって良いと思うが、一番大事なものは環境、一番守らなければならないのは生態系・生息環境であり、そこに色々な種がいますよという順番だと思う。まずは環境の質を市民で調べてみるような視点もあったら良いと思う。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ グリーン農業の話は「活かす」の所で、これからいかに訴えかけていくかというときに、消費者にどういうメッセージを送るかという問題がある。環境の分野の中でもエコバックやマイバックといった取り組みが進んでいく中で、自然の部分で消費者に分かりやすいメッセージをあまり聞いたことがないという気がする。
- ・ モニタリングについては、指標種というところで現在は考えている。単に指標種だけいけば良いという事ではなく、それをやる中で今どういう状況なのか皆で読み解こうとか、みんなで目を向けてこれがいるという事はどういう環境なのだろうかという伝え方をしていきたいと思っている。その中でご指摘を踏まえてメッセージ性等を考えていきたい。

【市民公募_那須氏】

- ・ おそらく環境まで目が行っていない。水場があればトンボがいて何がいてというイメージであって、そこに流水環境があるかそれとも止水なのか、緩い流れなのか早い流

れなのので、それぞれ対応する生き物が違うのだが、なかなかそういう視点が一般には浸透していないような気がする。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 重要な地域と自分たちの地域の身近な自然の2つの視点があって、モニタリングもその2つを取り込んでやっていこうという事で実施している。全市的に生息生育しているか、特定の地域だけで生息生育しているか等を分けて、指標種もそのような方法を考えている。

【市民公募_那須氏】

- ・ 資料だと環境の増減がわからない。生態系の何が減っているのか、縮小しているのか。地図を重ねてみればわかるのかもしれない。お年寄りから聞いてみるのも良いと思う。

【学識経験者_内野先生】

- ・ そうだと思う。専門家だけではなく市民を巻き込んでモニタリングすることが良いと思う。

(2) 平成 29 年度熊本市生物多様性関連主要新規事業について

●資料についての説明

【熊本市 環境共生課_藤井主任主事】

- ・ スライド（平成 29 年度熊本市生物多様性関連主要新規事業）をもとに説明

【学識経験者_内野先生】

- ・ ここまで基本戦略の1、2、3の話が中心だったが、4と5について市としても何か考えていることがあるか。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ 土台となる基本戦略1と2をしっかりと実行しつつ、4と5に関しては庁内の認識の差をなくすことや、2の普及啓発に力を入れることで、将来引き継いでいく方々にも理念を伝えることがまずは重要だと思う。
- ・ まず基本戦略1と2を優先しつつ、緊急性の高い3の外来種の問題にも取り組みたい。また庁内の連携の仕組みを構築し、軌道に乗せるという所もしっかりやっていきたい。基本戦略4については、実際街路樹を整備するのにどのようなことが必要なのか、そもそも緑をどのように整備していくのが良いのかという考え方を整理する必要があると思っているが、来年度全てを着手するのは難しいので、優先度をつけて実施していきたいと思っている。

【学識経験者_内野先生】

- ・ まず基本戦略1、2、3の「知る」「学び、つながる」「守る」を進めて、次の段階で4「創る」、5「活かす」がでてくるが、今、熊本地震によって生物多様性が壊れていっ

ている場所もあり、そういうものを考えていく必要がある。色々な文化財や生物多様性を復興させて、生物多様性をもとにして活かして、熊本の復興・復旧等にも活かして観光にもっていくというような視点も大事だと思う。だから基本戦略3の「守る」まで進めばそのようなことも考えて実施していく必要がある。

【熊本市南土地改良区_永井事務局長】

- ・ 私も水路の工事などの仕事をしているが、国交省や農水省の補助事業などでは、今は事業を始める前には必ず生きもの調査をしないといけない。そこで我々のエリアでは、維持管理の面と環境の面どちらもよいように、水田魚道などの生きものすみかづくりを行っている。
- ・ そこは現場の担当者の認識だと思いが、なかなか現場の担当者まで意識が届いていないところがある。農水関係では事業が始まる前に必ず委員会を作っている。市役所の中だと単費だと難しい点もあると思うが、徐々に頑張ってもらいたい。何かあれば我々を入れてもらって、発言させてもらえればそう難しいことではない。創るということはずっとそれでいくので大きなことだと思う。そういった点に配慮してもらいたい。

【水と緑ワーキング・グループ_大住代表】

- ・ 熊本市ではないが関連して、いつも生きもの調査をさせて頂く山都町の白糸台地の水路がある。その水路から水を引いている棚田が、地震で被災してボロボロになってしまっている。コンクリートでつくるのが最も簡単だが、歴史ある棚田をそのようにはしたくないということで、どうしたら復興できるか皆で話し合い、東京からボランティアを呼びながら行っている。復興にはそのようなことも考えながらやらないといけないと思うが、そういう連携というのはどうしたら出来るのだろうか。山都町は町を挙げて実施しているから可能なのだと思うが。
- ・ もう一つ、地下水の方で言えば、清流米等の水を活かすお米のブランド化がかなり進んでいる。地下水の恵み、水を育む水の恵みという農産物もできている。色々ブランド化されつつあって、うまく売れるかはグリーン農業にかかっている所もあるが、それと同じような方法で生き物の方でも何かブランド化していくのが早いのではないだろうか。農政やJA等と共に考えていかなければならないが、これが生物多様性の恵みなのだと、そのような物を作る方が早い。食べ物以外にも熊本城のお土産とか色々な物が考えられる。そのようなブランド化をする中に生物多様性が生きてくるような、そして何をするにも経済が循環していかないと上手くいかないと考えている。行政の補助金や助成金に頼っている間は絶対に自立できないと考えているので、自立できる何かを進めていかなければならないのではと考えている。

【学識経験者_内野先生】

- ・ そのような視点は非常に大事なことだと思う。

(3) 意見交換会

●内容の説明

【学識経験者_内野先生】

- ・ Cプランというのは行政だけでやるものではなく、市民や市民活動団体、事業所、有識者の方々がそれぞれの立場から一体となって実施していくものである。この会議も行政の取り組みを審議したり評価したりというだけではなく、各主体の活動をより発展させるためにはどうすれば良いかという協議も大切になる。今日のテーマとしては基本戦略の1から5において各主体の基本的役割を実現していくために、各主体はどのようなことができるのかということを皆様にお聞きしたい。

<各主体はどのようなことができるか>

【市民公募_那須氏】

- ・ グリーン農業の作物を買うが市民にできることかなと思う。また、ベランダ菜園のプランターでも化学肥料や薬を減らしていくことが挙げられる。江津湖の近くに住んでいるが、上江津湖で硝酸性窒素が年々高くなっていると最近知り、水が良いつもりで熊本に来たが、水質が悪化しているという現状を目の当たりにした。薬や肥料はいずれ土に行き、土に行ったものは水に入っていくという考え方から、周囲では庭木に薬や肥料等を使用しているが、自分はするまいと考えている。市民の一人として自分にできるプランターから始めようと思う。

【市民公募_松永氏】

- ・ 20数年前に転勤で東京、大阪に行ったことがある。その頃子供が小学生だったが、身近な動物の絵を描くという学習会で、鶏の足を4本描いた子供がいた。娘は田舎から出て行ったので2本ということはわかっていたが、4本足の鶏もいるのかなと聞いてきたことがあった。また、法学部出身の大学卒業してすぐの方から、熊本はメロンの生産が日本一だが、熊本に行った時にメロンの木が見えなかったと言われたことがあった。メロンは野菜の扱いだが、統計では果実として扱われているため、樹になるものと思っていた。更に娘の友人が私の自宅の家庭菜園で収穫の体験をしたことを、10数年後にその時感動したことが忘れられないと言われたことがあった。
- ・ そのようなことを考えながら、食育なり、環境なり、そのような体験をさせることが大切であると思った。この戦略の「知る」の前に、興味を持たせ、そこから「知る」、「学ぶ」に繋がるのではないか。また、子供だけでなく親子で楽しめる、興味を持ってもらえる学習の場を作っていくことが大切である。

【水前寺活性化プロジェクトチーム_永野会長】

- ・ 今回この資料を見て、このようなことに裏付けられて色々実施しているという事を知った。私たちは現場で、親子で参加して頂けるような水前寺江津湖フェスタ等の、啓発、学習会、体験、参加型のイベントを、一年間を通じて多数実施している。そのような場で、ここで学んだ大切なことを、皆さんに伝えていきたいと思う。

【NPO 法人コロボックル・プロジェクト_甲斐原理事長】

- ・ 「活かす」の一つで、西区のまちづくり懇話会に入っているが、各区がマップを作成している。その中に生物多様性に関連する要素はたくさん入っているが、生物多様性の視点が入っていない。次回の改訂の時には生物多様性の視点で整理しなおすと、自然の生きものだけではなく、水だけではなく、歴史、文化まで入るところで、生物多様性の視点が徐々に入っていくのかなと思う。「活かす」という所に今後本当に活かしていけたら良いと思う。
- ・ 「創る」という部分では、生物多様性に配慮した整備という点で、川づくりに関して関係課が多数ある。2級河川ならここ、用水路ならここというように。そこは確実に生物多様性の視点で楔を打ち込んでいかないと、絶滅危惧種がどんどん増えていく。その点で「創る」といった時にはネットワークをますます大事にしていきたい。
- ・ 永井さんがおっしゃる田んぼづくりは、生物多様性を子供たちに伝えるとても良い取り組みだと思う。食育もそうだが、田んぼづくりや川づくりを「創る」という所で将来イベントを実施していきたいと思う。

【株式会社 杉養蜂園_毛利代表取締役会長】

- ・ 私の会社の創業者は山鹿市の菊鹿町出身で、町長に依頼されたか何かで、耕作放棄地を購入し、そこでウメを栽培している。また、フードパルの近くではキンカンを栽培している。両方とも当社商品にも利用できるものではあるが、それだけではなく梅干やキンカンをプレゼントとして利用している。耕作放棄地を縮小するところまではいかないが、このようなことは企業としてはやるべきかなと思う。我々の業界だからできるところもあるが、そのようなことはやり続けていきたい。
- ・ もう一つはミツバチにとって良い環境とするためには、農薬の問題がある。ネオニコチノイド系の農薬はハチを減少させるだろうという事があるので、その辺りをEUでは試験している。ネオニコチノイド系農薬を使用しないという事で2年間ほど続けているが、日本は取り組みが遅れている。そのようなことも早めに進めていただきたい。
- ・ また、外来種の問題でツマアカスズメバチの侵入を懸念している。まだ熊本では発見されてはいないようだが、そういったところも生物多様性で着目して頂き、加味して頂ければ、我田引水ではあるが農業には大きく関係してくるので、少し気にとどめて頂ければと思う。

【熊本市南土地改良区_永井事務局長】

- ・ 農村地域では各団体の連携、阿蘇から有明海、流域連携といったものが必要だと思う。美土里ネットは水の商売でもあり、土を守る団体で、連携が10年前位によく出来た。なかなか行政ではできないことだと思う。
- ・ 経済活動につなげる話もでているが、豊岡ではコウノトリ米を生産しているが、私の所ではれんげ米を生産している。今度は赤とんぼ米にチャレンジしようと思っている。れんげ米は少し成功したがなかなか持続できないため、連携が一番大事だと思う。プラットフォームづくりではないが、農業団体それぞれの分野、フィールドがあるので、そこで活動してくれる人を集めて進めていければ、熊本市の底上げに繋がっていくのではないと思う。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 学識経験者は生物学や生物多様性の専門家なので、その専門知識の提供や提言等を通して活動の支援を行っていくというつもりである。

【学識経験者_仮屋崎先生】

- ・ 学識経験者の立場から言うと、生物多様性を守ると言うが、それを構成している生物の生活史や必要な生活資源、あるいは他の生き物との関係は驚くほど解明されていない、暗闇の中で手探りをしている状況である。
- ・ 例えば熊本市にはオニバスが生育しているが、オニバスの種子が何年もつかはままだわかっていない。発芽する前の泥の中で何年眠って生きられるのか。今の記録では55年だが、それ以上まだ伸びるかもしれない。また、発芽する条件もよくわかっていない。泥を混ぜると発芽するという人もいるが、混ぜても発芽しないこともある。現在理解している自然は、実はごく一部であって、生物たちはそれぞれに我々人類が知り得ない条件をきちんと感じ取って生活をしている。そのような手探りの状態で、生物多様性をできるだけ維持していく作業が必要になるという、実はとんでもない無謀な状態である。だが、それはやらなくてはいけない。
- ・ 最先端の研究者がいて、遺伝子の解析であるとかそれぞれ色々な研究をしている。そのようなところの情報を、いかに効率よく集めるかも重要なことだと思う。ある新聞によると、ツマアカスズメバチにトラップを使用し効率よく捕獲できたため、対馬では減少に転じている、という報道があった。そのようなトラップの作り方等、最新の情報を収集する作業が重要ではないかと思う。

【学識経験者_内野先生】

- ・ 時間が来ましたので本日はこの辺でやめさせていただく。
- ・ 資料の中に谷垣課長が作成した「生物多様性くまもとCだより」がある。一般市民の方にもわかりやすく作られているので後で目を通していただきたい。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ 今回創刊号で内野先生に文章を書いていただいた。この会議に参加された方にはいつか執筆をお願いする事があるかもしれないので、その時にはよろしくお願ひしたい。

【学識経験者_仮屋崎先生】

- ・ 小学校あたりに配れないか。

【熊本市 環境共生課_谷垣課長】

- ・ 現在はまだイベントの時や窓口で配布・設置している段階だが、配布しようと思えば配布していただくこともできる。まだよく活用できていないのでその辺りも検討していく。

7. 閉会

以上